

## 1995年(第27回)川崎医科大学\*1

津田 司\*2

第27回日本医学教育学会総会および大会は1995年7月20日(木), 21日(金), の2日間, 望月義夫大会長のもと倉敷市の川崎医療福祉大学にて開催された。大会参加者数は323名, うち学生が23名で, 特別講演, シンポジウム2題, ワークショップ3題, パネルディスカッション3題, 要望演題26題, 一般演題58題について参加各位の熱心な討論といろいろな相互の交流がもたれた(表1)。

大会の位置づけとしては, 川崎学園が医師の養成(医大), 医療福祉, 情報関係などの専門職の養成(医福大), コメディカルの技師, ナース, 秘書などの養成(医療技術短大)をしているので, 医学, 福祉, 医療技術関係のそれぞれの教官が出席できるように, 基調テーマ, 演題その他の主題を考え構成することにした。いま1つは, 学会の性格上, 受身的でなく参加者全員がお互いに教え, 教えられるというワークショップを設け, 参加した人が何かを持ち帰り, 明日の教育に繋いでいただけを期待した。

基調テーマを「人間社会と調和のある医学教育」としたのは, 医学教育の主目的が進展の速い現代医学医療環境とその周辺の人間社会の変貌に対応しうる医師や医療専門職を養成することにあると考えたからである。

さて, 大会の内容の概要であるが, 特別講演は, 前筑波大学副学長の堀原一先生に「わが国の医学教育にとっての社会と人間」のテーマでご講演いただいた。先生の永年の医学教育に対する高邁な哲学から, 現在の発展しつつある医学医療学の中

で良医には人間性と社会性が強く求められていることを, 改めて広い観点から諭していただき, 基調テーマに恰好のご講話であった。

シンポジウムは2題組んだ。1つは「特定機能病院とプライマリ・ケア教育」のテーマで, まさしく近年の医学教育機関内での対応が問われている最大関心事の1つである。各分野からの意見をこの俎上に載せ, 活発な議論が行われ, 大会開始早々から緊張感の漂う内容であった。いま1つは統合カリキュラムである。新しい教育法として採用されたこのカリキュラムも20年を経過したので, その功罪を問う意味で取り上げた。新しく器官系別統合カリキュラムへの移行を目指す施設の参考となることを, また, すでに採用している施設には反省と改善が行われることを期待した。

ワークショップは2日目午前中3時間, 「客観的臨床能力試験(OSCE)」「標準模擬患者を用いた教育」「卒前の外来小外科教育法」の3テーマで開催した。最初のテーマは, 本学の6年生のOSCE現場を参加者各自が見学した後, その場で論議をしていただいた。また, 模擬患者教育ではシナリオの評価, フィードバックなどのあり方の実演などを交えて参加者全員で検討できた。小外科教育では豚足を用いて縫合などを参加者個々が実技を体験実習していただいた。これらは通常の学会ではみられない密度の濃い内容であった。

ワークショップに並行して, 別の3会場ではパネルディスカッションが開催された。「これからの一般教育の在り方」は, 教養軽視, 実学優先の強い現教育に対する警鐘であった。「Problem-based Learning—特にtutorialについて」は前年度のセッションでも取り上げられていたが, 今回は医学教育全般の中での意義と位置づけ, 方法, 設備, 教材, 評価法などについての意見交換が行

\*1 The 27th Congress of Japan Society for Medical Education (1995), Kawasaki Medical School

キーワードズ: 日本医学教育学会大会, 第27回, 1995年

\*2 Tsukasa TSUDA 川崎医科大学総合臨床医学

表 1. 第 27 回日本医学教育学会総会および大会

## 1. 期日および会場

期日：平成 7 年 7 月 20 日（木）、21 日（金）

会場：川崎医科大学および川崎医療福祉大学

## 2. 基調テーマ 「人間社会と調和のある医学教育」

## 3. 特別講演 「わが国の医学教育にとっての社会と人間」

堀 原一（前筑波大学副学長）

## 4. シンポジウム

## 1) 「特定機能病院とプライマリケア教育」

司会 勝村 達喜（川崎医科大学） 田中 勸（防衛医科大学）

## 2) 「総合カリキュラムの利点・欠点」

司会 植村 研一（浜松医科大学） 山科 正平（北里大学）

## 5. ワークショップ

## 1) 客観的臨床能力試験（OSCE）—26 名参加

コーディネーター：津田 司（川崎医科大学） 伴 信太郎（ 〃 ）

## 2) 標準模擬患者を用いた教育の方法—28 名参加

コーディネーター：藤崎 和彦（奈良県立医科大学） 大滝 純司（筑波大学）

## 3) 卒前の外来小外科教育法—5 名参加

コーディネーター：飯島 克巳（自治医科大学） 名郷 直樹（ 〃 ）

## パネルディスカッション

## 1) 「これからの一般教育のあり方」—50 名参加

司会 力丸 光雄（岩手医科大学） 引地 岳雄（福島県立医科大学）

## 2) 「Problem-based Learning—特に tutorial について」—60 名参加

司会 神津 忠彦（東京女子医科大学） 香川 靖雄（自治医科大学）

## 3) 「インフォームド・コンセントの教育をどうするか」—40 名参加

司会 福岡 誠之（明石市民病院） 平野 寛（川崎医科大学）

## 6. 要望演題

## 1) チーム医療

## 2) クリニカルクラクシップ

## 3) 在宅医療の教育と福祉・訪問看護

## 4) 生涯教育

## 5) 卒後進路の決定要因

## 6) これからの基礎医学教育

◆大会長 望月 義夫（川崎医科大学・学長）

副大会長 勝村 達喜（川崎医科大学附属病院・院長）

実行委員長 山下 貢司（川崎医科大学・副学長）

われた。「インフォームド・コンセントの教育をどうするか」の重要性は十分認識されていないながら医学教育の中では道遠しの感がないではない。それぞれの立場から問題点、患者側の受け止め方、教育の方法、評価などについて活発に議論された。これらのパネルは、決して今ただちに結論を出すことではなく、明日への発展の糧とすべきであると考えられた。

さらに要望演題 26 題と一般演題 58 題が発表され、活発な討論が行われた。

サテライトセッションとして、本学総合臨床医学教室（津田教授）主催、大会後援のもとに、ミ

シガン州立大学家庭医療学教室の Linda M. Garcia-shelton 教授の「医学教育における行動科学の重要性」についての講演討論会が開催された。

最後に特筆しておかねばならないのは、本年度から医学教育賞が設けられたことである。今年第 1 回は川崎医大、総合臨床医学教室、伴信太郎先生ほか 11 名が、論文「OSCE による一臨床入門—実習の評価」に対して医学教育奨励賞を、また、香川医大生理学教室、細見弘先生ほか 7 名が、論文「入学試験成績の因子分析」を中心とした一連の研究に対して医学教育振興賞を受賞された。